

早期自宅退院を希望した 注意障害の1症例

I . 症例紹介

60歳代 男性

【現病歴】

早朝、右麻痺にて発症。

救急搬送後、CT上左視床出血と診断。

当院へリハビリ加療目的にて平成X年Y月Z日転院。

【既往歴】

高血圧 高脂血症 高尿酸血症

陳旧性心筋梗塞 喘息 蓄膿症

【家族背景】

6人暮らし(KP:妻)

【職業】

自営業(通訳・翻訳)

自宅内と外出先での仕事をしていた

【本人・家族 Demand】

- ・元の仕事をしたい(本人)
- ・自宅内ADL自立(妻)

Ⅱ. 画像所見



左視床出血 (Φ20mm)

脳室内穿破 (+)

Ⅲ. 初回評価

1. 身体機能

BRS-T	下肢Ⅲ～Ⅳ 上肢Ⅳ～Ⅴ 手指Ⅴ
感覚	上下肢共に表在・深部 中等度鈍麻
筋緊張	上肢 動作時に亢進 下肢 安静時より亢進 クローヌス(+)
その他	体幹・右上下肢に失調を認める STEF21/100点

2. 各検査結果

MMSE	15/30点 減点項目：見当識、計算、遅延再生、図形模写 ※23点以下認知機能低下疑い
TMT	Prat-A: 96秒 Prat-B: 未実施（練習にて困難のため） ※A 平均104秒（60代の平均 157±66秒） ※B 平均187秒（60代の平均 216±85秒）
CAT	（別紙参照）
三宅式 記銘力検査	有関係対語：1－2－4語正答 無関係対語：0－1－2語正答 ※有関係対語：平均 8.5－9.8－10 ※無関係対語：平均 4.5－7.6－8.5

3. ADL

起居	自立
移乗	一部介助 (バランスを崩すため)
移動	病棟は車椅子全介助 歩行は中等度介助(下肢装具装着)
排泄 コントロール	自立
セルフケア	一部介助 (バランスを崩すため 更衣・清拭・トイレにて 要す)

4. FIM

食 事	7
整 容	5
清 拭	3
更 衣(上 衣)	4
更 衣(下 衣)	3
トイレ	3
排 尿	7
排 便	7
椅子移乗	4
トイレ	4
浴 槽	3
移 動	3
階 段	1
運動項目	54点

理 解	4
表 出	7
社会交流	7
問題解決	4
記 憶	3
認知項目	25点

合計	計 79点
-----------	--------------

多弁で、
話題がよく変わる

早く家に帰って
仕事がしたい！！

内省が
言語化する

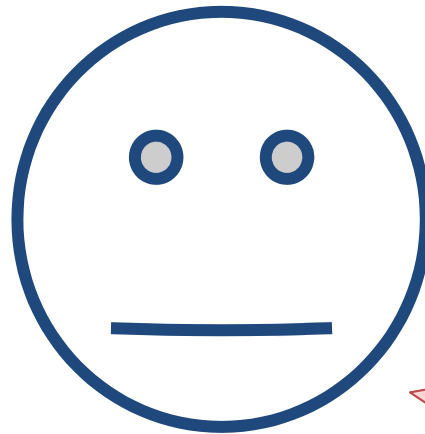
自主課題を希望
リハビリに意欲的

動作が性急で
車椅子操作が粗雑

限定した環境では
比較的注意は持続

ナースコールを忘れる

刺激の多い環境によって
注意散漫になりやすい



IV. 問題点

◎全般的な注意機能の低下

(持続性・選択性・転換性・分配性注意機能)

◎記憶の低下

(短期記憶・容量の低下・ワーキングメモリー障害)

◎情報処理能力の低下

(正しく処理できない、時間が掛かる)

◎病識の低下

V. 目 標

【短期目標】

- 注意障害の改善
- 記憶の低下に対する代償手段の獲得
- 病識の獲得

【長期目標】

- 生活スケジュールの自己管理
- 援助者の元で復職可能なレベルの能力向上

VI. アプローチ内容

抹消課題

『1』を抹消！

始めは...

ターゲット少数

2	5	6	1	4
5	6	9	8	2
8	4	1	5	7
1	7	2	7	3
3	1	4	9	8
9	5	1	3	4
4	3	7	6	6

抹消課題

エラーが減少...

ターゲットを多数
条件も付ける

奇数段は偶数に○
偶数段は奇数に×

②	5	⑥	1	④
×	6	×	8	2
⑧	④	1	5	7
×	×	2	×	×
3	1	4	9	8
9	5	1	3	4
4	3	7	6	6

Stroop課題

始めは…
繰り返し課題の説明を要す
文字を読むエラーあり

次第に…
エラーは減少し、
所要時間も短縮する

ORENGE

RED

GREEN

RED YELLOW GREEN

ORANGE BLUE GREEN

YELLOW

BLUE

ORANGE BLUE GREEN

RED ORANGE EN

ORENGE

ORANGE BLUE GREEN

YELLOW BLUE RED

ORANGE RED GREEN

パソコンの練習

① 英語文献辞書を使用して和訳する
→ 持続性・選択性注意

② 文献をパソコンへ打ち込み
→ 全般的な注意機能

③ エラーの有無を見直す
→ フィードバック

あらかじめ時間や実施する作業量を条件を付けて行う
→ 時間などのスケジュール管理



スケジュールの管理

◎必要なことやスケジュールのメモを取る

◎リハビリ前にスケジュールを確認し、
準備する

◎リハビリ内で時間を決めて課題を行う

→記憶の代償手段の獲得

→生活スケジュールの把握、計画

多弁であるが、
話題にまとまりあり

入院後、3ヶ月にて
自宅退院となる

必要以外は
話さない

仕事をしないと
生きていけない！！

メモの習慣化
スケジュールにて
行動する

生活でのリスクは
想定される状態・・・

注意機能も改善傾向に
ADL自立へ

動作時の性急さや
注意障害は残存・・・



VII. 最終評価

1. 身体機能

BRS-T	下肢 V 上肢 V ~ VI 手指 VI
感覚	上下肢共に表在・深部 軽度鈍麻
筋緊張	初評価時より軽度改善 クローヌス(+)
その他	体幹・右上下肢に失調を認める STEF57/100点

2. 各検査結果

MMSE	25/30点 (初回15点) 減点項目: 計算、遅延再生、図形模写
TMT	Prat-A: 62秒 (初回96秒) Prat-B: 195秒 (試行錯誤あり) (初回未実施)
CAT	(別紙参照)
三宅式 記銘力検査	有関係対語: 3-5-7語正答 (初回1-2-4) 無関係対語: 0-1-4語正答 (初回0-1-2)

3. ADL

起居	自立
移乗	一部介助→ <u>自立</u>
移動	病棟は車椅子全介助 歩行は中等度介助(装具装着) → <u>自立(装具なし T-cane使用)</u>
セルフケア	一部介助→ <u>自立(入浴以外)</u>
排泄 コントロール	自立

4. FIM

食 事	7→ 7
整 容	5→ 7
清 拭	3→ 6
更 衣(上 衣)	4→ 7
更 衣(下 衣)	3→ 7
トイレ	3→ 7
排 尿	7→ 7
排 便	7→ 7
椅子移乗	4→ 6
トイレ	4→ 6
浴 槽	3→ 4
移 動	3→ 5
階 段	1→ 5
運動項目	81点

理 解	4→ 6
表 出	7→ 7
社会交流	7→ 7
問題解決	4→ 5
記 憶	3→ 5
認知項目	30点

合計	計 110点
-----------	---------------

5.退院時の状況

環境面	発症前の住居より転居 家屋情報は収集するが家屋調査は未実施
社会面	介護保険：要介護1 ケママネ、介護保険サービス未定
生活面	おもな介護者はKPの妻 退院後の仕事復帰は未定

VIII. 考 察

- ・注意機能へのアプローチは環境設定・難易度の調節を段階的に行えた
- ・注意機能が改善したことで動作時やコミュニケーション場面、自己管理にも変化がみられた
- ・早期退院は実現したが、後の生活への支援や援助は考慮を要する

【グループ課題】

PT・OT・STとして、
自宅退院・復職に向けて
どんな支援や指導を考えますか？

当院で実施したこと

- ①退院後の家族指導
- ②退院後の環境を想定したリハビリ
- ③自主トレーニングの提供
- ④入院時の情報提供

退院後の生活

【退院 1ヶ月後】

『家族様の介護状況』

入浴・更衣に介助要した
→身体的負担あり

自分の時間が持てない
→時間的負担あり

『本人様の生活状況』

訪問リハビリ1回／週
毎日、近所を散歩
日中は寝ていることが多い

【退院 3ヶ月後】

『家族様の介護状況』

ADLはほぼ自立
→身体的負担やや軽減

自分の時間が持てない
→時間的負担あり

『本人様の生活状況』

交通公共機関を使用し外出
訪問リハビリ3回／週
仕事復帰を希望している

